

第2回 徳島阿波おどり空港将来ビジョン検討会議 議事概要

日時：令和7年12月11日 14:00～16:00

場所：徳島県庁 10階 特別大会議室

1 航空ネットワークの維持・拡充

- ・利用者目標120万人に対しての現在の状況は。
→令和6年度の利用者数は約107万人。
- ・120万人内訳をどのように考えているのか。
(目的別(観光、ビジネス)、国内と国際、羽田とその他国内線など)
→現状を説明。今ある路線の維持と搭乗率の向上をまずは進めていき、その上で国際線もしくはさらなる増便に取り組むことで120万人を目指す。
- ・徳島＝大阪間、徳島＝神戸間の高速バスの輸送量が約120万人であることを考えると、高い目標であると評価する。
- ・搭乗率が上がれば大型化や増便化するかは疑問。
タイムセールを月1ペースで実施しており、旅客単価が下がっているのでは。
- ・徳島空港が注力するとすれば、ソウル線のデイリー化。もっと言えば新規参入によるWデイリーを目指すべき。
- ・セールで買えばフルサービスキャリアであってもLCC並の料金で乗れるので、LCCが就航していない空港にとっては追い風。
- ・徳島空港はソウル線に注力してはどうか(イン、アウト双方見込まれる)。
- ・初めての海外旅行で韓国はハードルが低い。
- ・国内のアウトバウンドも増やしていかないといけない。
- ・誰をどこから呼び込むかの戦略立てを。
- ・万博のパソナパビリオンの淡路島移設は徳島にとってもチャンス。
- ・タイでのJNTOのイベントでは、四国や山陰のブースが人気。
ゴールデンルートの情報は動画などが豊富。
- ・欧米豪の周遊旅客の獲得。

2 空港施設の機能強化・魅力向上

- ・空港ビルでは、搭乗待合室内でのワークスペースの設置などの利便性向上に取り組んできたところ。今後は直営店の商品ラインナップの見直し等に取り組む。
- ・課題としては、余剰スペースがないため、休憩スペースが確保できない。
- ・空港ビルの収益を向上させるには、発着数の増加がなければ難しい。
- ・地域商社では、空港ビルと連携した店舗改善や利用者目線を取り入れた商品開発に取り組んでいる。
- ・徳島空港はコンパクトにまとまっていて使い勝手がよいが、長く滞在するよりもスムーズに通過する空港の印象。
- ・若者視点によるSNS発信のポイントは次の3つ。
(1) 共感が得られるかどうか(おもしろそう、楽しそう)
(2) 1枚目の写真を見て続きをみるかどうか決める

(3) ハッシュタグ検索や動画も参考にしている

3 二次交通・利便性向上

- ・駐車場の事前精算機の導入は早急にお願いしたい。
さらにはバーコード決済、交通系 IC の利用拡大もお願いしたい。
- ・朝 1 のリムジンバスが、始発便（7：45）よりもかなり早く到着し時間を持て余す。
- ・大塚国際美術館は依然として日本人比率が高い。着いた日に行くことができる動線確保しては。
- ・非航空利用者を誘致するのであれば、駐車場対策は必須（空港のエンタメ化と両輪）。一方、駐車場は乗る人をファーストプライオリティで考えるべき。満車対策として、羽田のように値上げを視野にいれることも検討。

4 今後の進め方について

- ・人口減少していく中での空港機能拡張は、空港の収支バランスに照らして妥当なのか。
→一般的には「航空系事業」は赤字で「非航空系事業」は黒字。コンセッションでは一体的な運営により収支バランスを取っていく。
- ・短期的に取り組む事項は、コンセッションの有無に関わらず実施するのか。
→実施する。
- ・騒音などのクレームが今でも役場や海自に入っている。
- ・周辺自治体対策として支援機構から還元がなされているが、コンセッションにおいても継続されるのか。
→支援機構がしている事業をそのまま引き受けることになる。
- ・小松空港は現在調査段階ということであるので、その動向を見ながらにはなると思うが、長期的な視点ではコンセッションは選択肢の一つとして残しておいてよいと思う。
- ・コンセッション含め民間活力を活用し機能強化を図ればよい。
- ・コンセッションの導入にあたり県内企業で参画する可能性がある事業者はあるのか。
→徳島の旅客数だと「フルコンセッション」であれば赤字。ビルと駐車場だけのパターンだとかなりハードルは下がる。
- ・コンセッションを含め、このビジョンを実現するための枠組の検討はしっかりとしてもらいたい。